

MAFF ナビ いわて

東北農政局 岩手県拠点
令和6年9月

本紙は、農業や食料に関する情報をデータで提供し、農業関係者から消費者まで、多くの皆さんが農産物の生産・消費に興味を持ち・考えていただく材料として発信しています。内容については、農業・農村を取り巻く情勢を多様な目線から分析し分かりやすくしたものです。

なお、紙面中の試算値は東北農政局岩手県拠点が独自に算出した値ですので、参考として活用いただくようお願いいたします。

今回は、「就農」をテーマに取り上げ、農業分野における労働力事情について考えることとしました。労働力の確保やスマート農業技術の導入による省力化等について考える材料としていただければ幸いです。

1 岩手県の農業従事者の状況

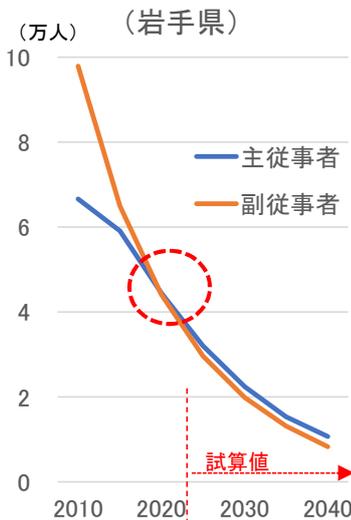
(1) 農業従事者

農業分野における労働力不足（担い手の減少・高齢化）は、食料生産の問題だけでなく農地の保管理や農村社会の継続等、様々な観点から問題視されています。

農業従事者数を「ふだん仕事として自営農業に従事する者（本紙では以降「主従事者」と表記）」と「それ以外の農業従事者（同「副従事者」と表記）」で傾向を比較すると、副従事者の減少幅が主従事者の減少幅を上回る傾向となっており、今後も同様に進むことが予想されます。イメージとしては、専門的に農業を行っている者が残り、兼業的に行っている者が減少している構図となります。

これを、農家の農業後継者の視点から考えれば、兼業で自家農業を手伝っている若手従事者が急速に減少している状況から農業後継者不足に拍車が掛かるのではと心配されます。

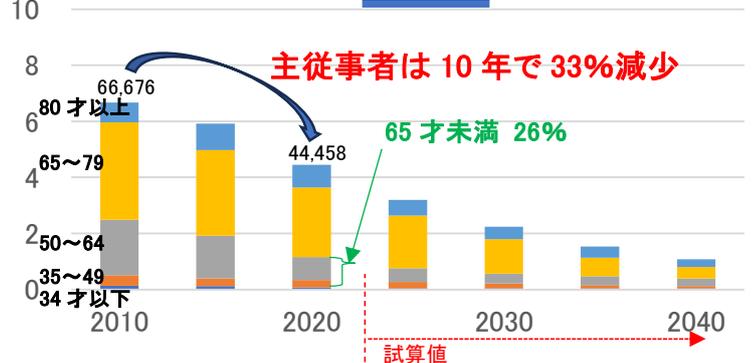
農業従事者の予測【試算】



2020年に主従事者と副従事者の人数が逆転

資料:「農林業センサス」を基にコーホート推計により東北農政局岩手県拠点が算出

【試算】主従事者の年齢構成



【試算】副従事者の年齢構成

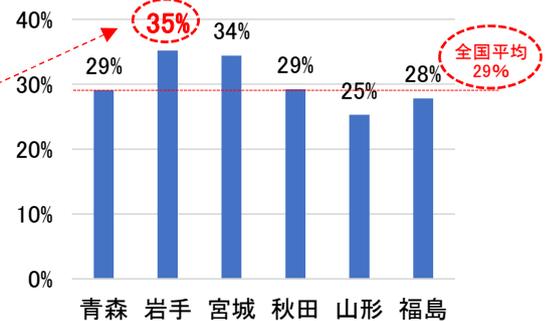


(2) 農業後継者

岩手県の農業後継者がいる農家等の割合は、東北で最も高い 35% となっており、東北では岩手県と宮城県が全国平均を上回っています。

岩手県の農業後継者率は高い方ですが、それでも35%です。将来の食料生産を考えると深刻な問題と考えます。

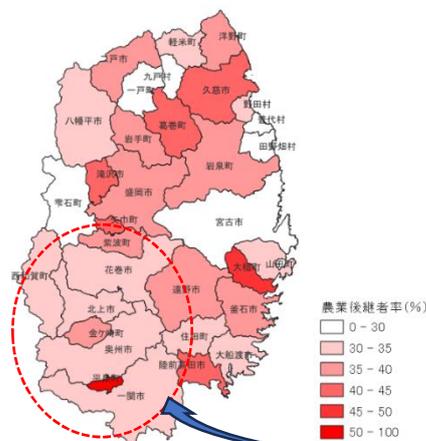
農業後継者がいる農家等の割合
(継承したばかりの農家等を含む)



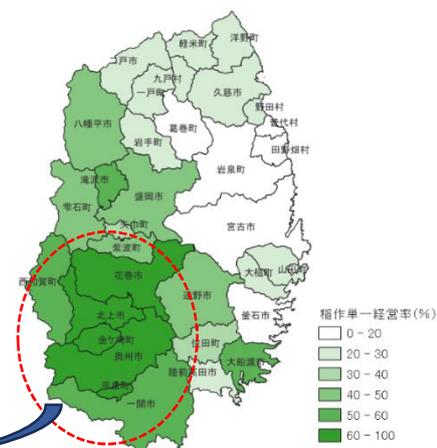
資料: 2020年農業センサス

県内の農業後継者を市町村別にみると、稲作経営の多い県南内陸部の後継者率が低い状況となっています。

農業後継者がいる農家等の割合(市町村別)
(継承したばかりの農家等を含む)



稲作単一経営の経営体割合(市町村別)



稲作地帯の後継者率が低い

資料: 2020年農林業センサス

県内の農業後継者を経営面積規模で比較すると、経営面積の大きい経営体ほど後継者率が高い状況となっています。

これらの状況から考えると、経営規模の小さい稲作経営体が、比較的后継者が少ないのではと考えます。

農業後継者がいる農家等の割合(経営耕地面積別)
(継承したばかりの農家等を含む)



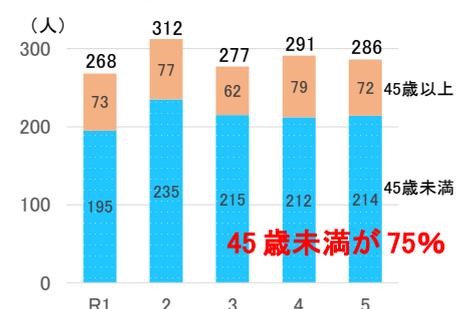
資料: 2020年農林業センサス

(3) 新規就農者

岩手県の近年の新規就農者は、農業従事者数が減少する中で横ばい傾向となっています。また、45歳未満の新規就農者の割合は75%前後と高く、5年間で1,071人が就農しました。

一方、農林業センサスの基幹的農業従事者は、平成27年から令和2年までの5年間で45歳未満の従事者が490人減少(2,894人→2,404人)しています。

年齢別_新規就農者数(岩手県)



出展: 岩手県農林水産部「令和5年度新規就農者について」

2 スマート農業技術の導入に向けて

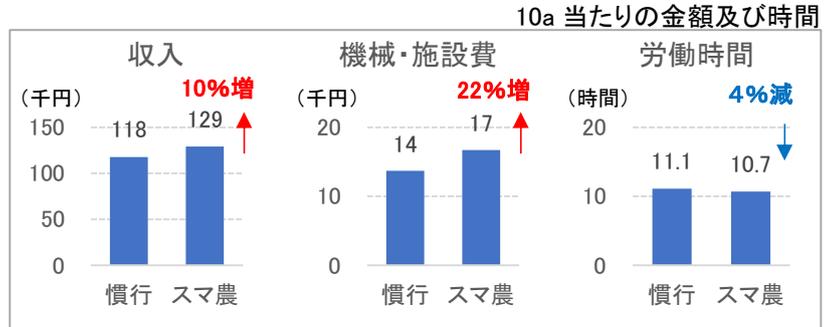
(1) スマート農業実証プロジェクト

前項のように農業分野における労働力不足（担い手の減少・高齢化）は大きな課題となっており、持続可能で強固な食料供給基盤の確立、農業・農村の維持・発展のために、ロボットやAI等を活用したスマート農業技術の導入による省力化や生産性の向上が重要となっています。

本項では、農林水産省農林水産技術会議事務局が令和元年度から実証を行っている「スマート農業実証プロジェクト」について、収入、労働時間、機械施設費を中心に紹介します。

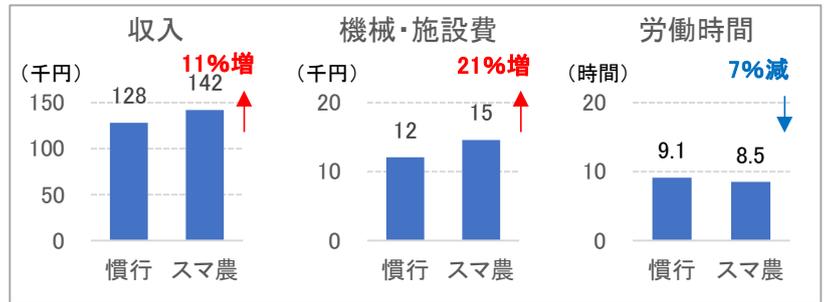
<事例①_家族経営>(令和2年度)

- 経営概要 ・大規模水田作
 ・水稲 65.2ha(実証 5.1ha)
 実証内容 ・自動運転トラクタ
 ・自動運転田植機
 ・収量コンバイン
 ・営農管理システム



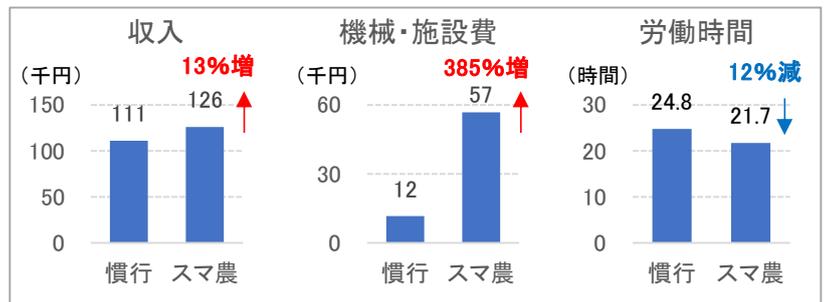
<事例②_雇用型法人>(令和2年度)

- 経営概要 ・大規模水田作
 ・水稲 160.0ha(実証 160.0ha)
 実証内容 ・収量コンバイン
 ・営農管理システム



<事例③_集落営農法人>(令和元年度)

- 経営概要 ・水田作
 ・水田(水稲・小麦) 4.2ha
 ・水稲受託 9.3ha
 実証内容 ・自動運転トラクタ、直線キープ
 田植機、ドローン
 ・収量・食味コンバイン



<事例④_集落営農法人>(令和2年度)

- 経営概要 ・水田作+水稲基幹作業受託
 ・水田(水稲・小麦) 4.2ha
 ・水稲受託 9.3ha
 ・農機シェアリング 7.0ha
 実証内容 ・自動運転トラクタ、直線キープ
 田植機、ドローン
 ・収量・食味コンバイン
 ・シェアリングによる機械償却額の減額



資料：農林水産技術会議事務局「令和元年度スマート農業実証プロジェクトの成果について(令和4年8月)」を基に東北農政局岩手県拠点が作成

注：事例③と④は、同じ生産者が別年度で異なる内容で実証を行った結果

全国の水田作実証地区（令和元年度採択 30 地区）の平均を見ると、総労働時間では 9%減少し、その内約 3 割の地区では 10%以上の労働時間の減少が見られました。

また、センシングデータ等に基づく可変施肥等の導入により単位当たり収量は 9%増加し、収入増に繋がっています。

一方、機械・施設費については、事例④のような農業機械のシェアリングによる機械・施設費の削減効果が見られたことから、導入コスト削減に向けた農業支援サービス事業者の育成・活用等の取組が有効と考えます。

(2) 後継者育成及びスマート農業の取組事例（岩手県立盛岡農業高等学校）

岩手県立盛岡農業高等学校では、「銀河のしずく」の高品質化に向けた研究を行っており、その中でスマート農業導入による効果について学習しています。

令和6年度のスマート農業の学習については、株式会社みちのくクボタの協力により、7月17日と9月25日に行われました。

1回目は、ドローンによるリモートセンシングで行った生育診断結果を基に、追肥の可否を判断できることを学んでいました。残念ながら、当日は強風の影響で飛行操作はできなかったものの、機器やPC画像等を使用した実習により仕組み等を感じ取っていました。

2回目は、収量コンバインによる自動操作を体験し、収穫と同時にほ場内の収量と成分の診断を実施できる仕組み等を学んでいました。

参加した生徒からは、「ボタン1つで操作できる等の進歩が感じられた。」等の声が聞かれ、担当の先生からは、「今回の体験を通して、彼らなりに将来の農業を考えてもらいたい。」との応援メッセージがありました。

農業の生産現場では、労働力不足が大きな課題となっています。当拠点では、後継者の育成とスマート農業技術の活用に向けた同校の取組について、今後も注視していきます。



ドローン体験



収量コンバイン体験①



収量コンバイン体験②

本紙は、将来の農業の担い手、労働力解消に向けた取組について考える材料としてご利用ください。
また、農林水産データの活用支援を行っています。遠慮なくご相談ください。

～ ご案内 ～

<新規就農の促進>

「農業をやってみたいけど、誰に相談したら良い?」「どんな支援策がある?」こんな疑問をお持ちの方は、以下をご覧ください。

参考 URL__新規就農の促進(農林水産省 HP)

https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/

<スマート農業の推進>

「スマート農業に興味がある。」「どんな支援策がある?」こんな疑問をお持ちの方は、以下をご覧ください。

参考 URL__スマート農業(農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/>

～ ニッポンフードシフト ～

「食」から「農」について自ら考えていただくことで、将来の「食」「農」を守っていく取組です。

主に、次世代を担う若い世代をターゲットとして情報を発信しています。

参考 URL__ニッポンフードシフト

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp>



東北農政局岩手県拠点
岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10
019-624-1125

